

アジアの大学の学生寮視察調査 — 本学学生寮への提案 —

北澤泰子

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

The investigation of dormitories at Asian universities: -A proposal to dormitories of Ochanomizu University-

Yasuko KITAZAWA

Ochanomizu University Student and Career Support Center

はじめに

近年、アジアの高等教育のグローバル化が進み、日本においてもグローバルに活躍できる人材の育成が求められている。お茶の水女子大学においても、2012年度から「グローバル人材育成推進事業」が始まり、国際的に活躍する女性リーダーの育成に取り組んでいる。

今年6月に発表された、英国の大学評価機関クアクアレリ・シモンズ(QS)の「アジア大学ランキング」では、1位は香港科技大学、2位はシンガポール国立大学、3位は香港大学であった。日本は8位の東京大学が最高位であった。上位5校のうち、3校が香港の大学であることから、香港がいかに優秀な学生を引き付けているかを窺うことができる。

本調査報告ではアジアの中でも特に評価の高い、シンガポールと香港の大学において、学生寮における取り組みをまとめ、寮生の入寮理由、寮内の交流及び寮内組織から、お茶大SCCでの取り組みの参考とする知見を得ることを目的とする。

本調査は2013年9月に行われ、シンガポールのシンガポール国立大学、南洋理工大学、中国・香港の香港大学の学生寮担当者による案内のもと行われた。

お茶の水女子大学の学生寮「お茶大SCC」

お茶の水女子大学は2011年に、「共に住まい、共に学び、共に成長する」ことを理念とした「お茶大SCC (Students Community Commons)」を開寮した(詳細については、赤坂(2010)、桂(2013)を参照)。学部1.2年を対象とした、定員50名の小規模

の教育寮であるが、「学生支援プログラム」に基づいた運営、5人1ハウスのシェアハウス方式の学生寮の取り組みは、各方面から注目を集めている。本学では、学生・キャリア支援センターに所属する「学寮アドバイザー」が、お茶大SCCの学生支援プログラム及び寮生のサポートを行う担当している。また、学生支援を担当する教員と職員が、共同で運営にあっている。

2013年度からは、2年間在寮経験のある3年生によるレジデント・アシスタント(RA)制度が始まった。RAは4名で構成され、寮生による寮生のサポート、及び学寮アドバイザーと寮生とのパイプ役を担っている。

海外視察調査

(1) シンガポール国立大学 (National University of Singapore: NUS)

シンガポールは東京23区程度の面積しかない無資源の国土に、378万人の国民が住む都市国家である。1997年にゴア・チョクトン首相(当時)が打ち出した“東洋のボストン(Boston of the East)”演説が有名であるが、10%ほどであった留学生入学率を20%に引き上げ、同国をボストンのような世界の優秀人材が集う学術都市にするという国家ビジョンである。以後アジア各地で留学生セミナーを開催し、各国の学生や教員を短期研修でシンガポールに招待するなど、積極的に人材の招致に取り組んできた。この結果、2011年には同国の大学入学者における留学生の比率は18%を占め、教員は50-70%が海外からの招聘者となっている(池田,2012)。

シンガポール国立大学は1905年創立のシンガポールで最も歴史のある大学で、学部・大学院合わせて30,000人以上の学生を有する総合大学である。大学内には六つのHallのほかに、Residential College、Student Residenceといった学部生、大学院生用の学生宿舎がある。また近年ではUniversity Town (U-Town)も建設されている。本視察調査では、学部生用の学生寮であるHallの内、「Temasek Hall」を訪問した。

1) 概要

Temasek HallはKent Ridge Campusに立地し、AからEの五つのブロックに、420部屋485名が入居している。男女比はほぼ同じで、階によって男女の居住スペースが分かれている。学年別では、1年生が40%、2～4年生は20%という割合になっている。学生の出身地は、シンガポール60%、留学生40%という割合になっている。これはシンガポール政府及び大学の方針で、留学生の受け入れを進めるとともに、シンガポール出身学生にもグローバルな経験を積むことを推進していることから、大学の国際化目標である「6:4」に倣っている。

寮費は、一人部屋100SGD/週、二人部屋70SGD/週である。1学期は12-13週のため、840-1300SGDになる(SGD:シンガポールドル。2014年2月のレートで1SGD≒80円)。5月から8月の休暇中は、オリエンテーション等で寮内に残る学生を寮内の一つブ

ロックに集め、空室を他の団体に貸し出している。寮内には大きな食堂があり、平日の朝食・夕食、土曜日の朝食、日曜の夕食が提供される。食費は寮費とは別に1日あたり3.5SGDがかかる。

2) 入寮手続きと入寮理由

入寮に関しては寮内の学生組織であるJCRC(Junior Common Room Committee)が選考を行う。申込はインターネットで受付、スポーツの大会に出場経験がある、出身高校、家庭事情等によりJCRCがSCRC(Senior Common Room Committee)に推薦する形で行われる。JCRCが推薦した入寮希望者は、ほぼ承認される。後程触れるが、NUSの六つのHallは、寮対抗のスポーツ大会がたいへん盛んであるため、スポーツの経験が重視される傾向にある。またスポーツをはじめとした寮のプログラムをよく理解した上で、入寮を希望しているかどうかを判断し、ミスマッチを防ぐ役割もしている。

シンガポールは東京23区の総面積よりも小さいため、シンガポール出身の学生のほとんどは自宅からの通学が可能な距離に住んでいる。このようなこともあり、「なぜ学生寮に入寮するのか」という疑問をホールマネージャーに尋ねると、「リーダーシップ・スポーツマンシップの経験を積む」、「家族の勧め」、「異なる価値観と出会うため」という理由が挙げられた。シンガポールでは住宅事情から、男性女性ともに結婚まで家族と同居することが多い。男性は大学入学前に兵役

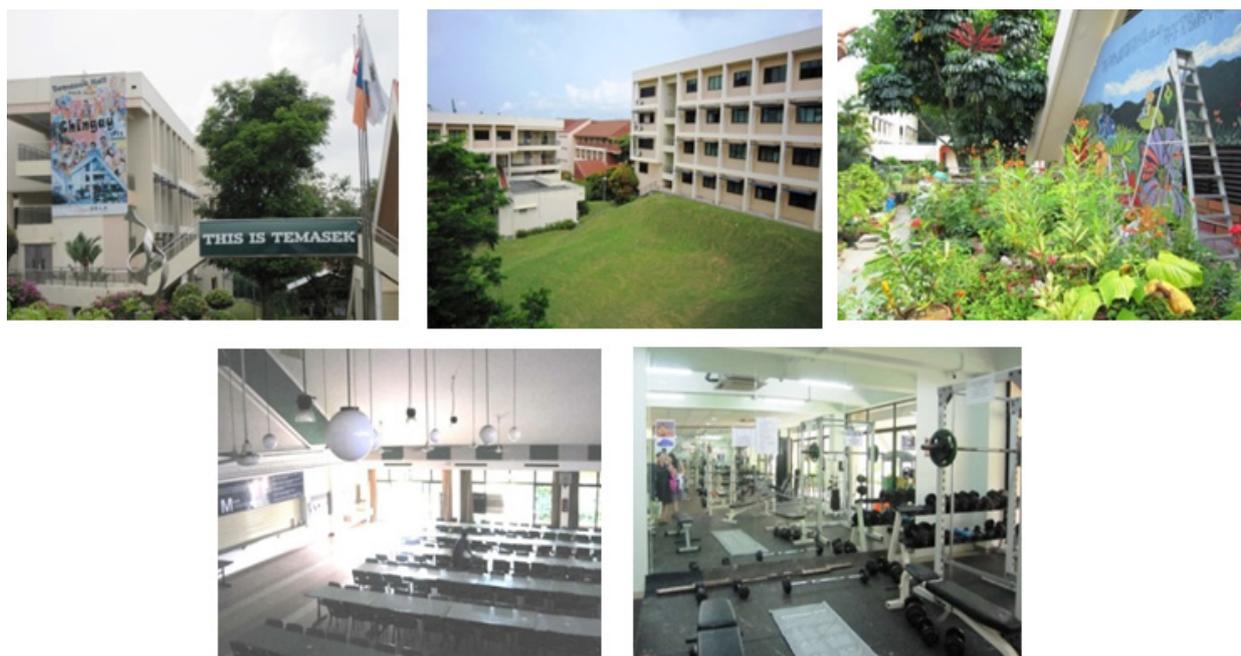


Figure 1 シンガポール国立大学 Temasek Hall の外観及び設備 (左上より、外観、中庭、花壇、食堂、トレーニングジム)

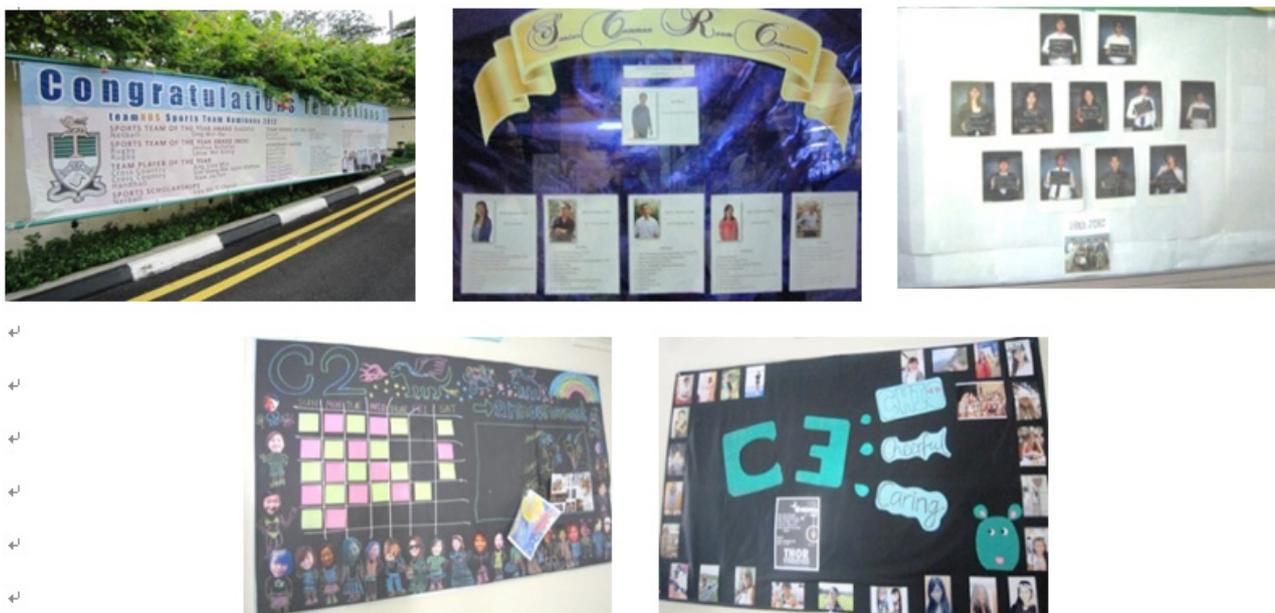


Figure 2 Temasek Hall 寮生組織及び寮内の交流の様子（左上より、寮対抗スポーツ大会の表彰、SCRC 紹介、JCRC 紹介、各階のメンバー表）

に入ることが多く、家族からの独立を経験するが、女性にはその機会がない。そのような背景もあり、家族が大学入学を機に、親離れを促すように入寮を進めることもある。以前は祖父母や「お手伝いさん」が週末になると寮に来て、居室内の掃除をする光景も見られたという。現在は入寮まで洗濯をしたことのない学生も入寮するが、掃除・洗濯は各自で行っている。

3) 寮内の交流と寮内組織

寮内の行事は週末に行われることが多く、寮対抗 (Inter Hall Games)、寮内ブロック対抗のスポーツ大会、入寮初日のイニシエーションの意味合いを持つ行事、五つのブロックごとに食事を囲む「ブロックテーマナイト」、「Rag Day」(廃材を利用して山車を作りパレードを行う NUS の行事。)、演劇、バンドコンサートといった寮を挙げての多彩なイベントが行われている。スポーツはサッカー、バスケットボール、水泳、陸上と多岐にわたり、17 種目の勝敗によりポイントが加算され、順位が決まる。

後期の終わりには、寮生組織である JCRC の選挙が行われ、次年度の役員が決まる。JCRC の役職は President、Honorary General Secretary、Director(Social Affairs、Cultural、Sports、Finance、Operations、Special Products) があり、任期は 1 年間である。1 年以上在寮の 2～4 年生が立候補することができる。

SCRC は NUS の教員で構成され、1 名の Hall

Master と 5 名の Resident Fellow が A～E のブロックをそれぞれ担当する。また 10 名の Hall Staff が事務的作業、警備、管理運営を行う。今回寮内を案内し、説明をしてくれた Hall Manager の男性は、マレーシア出身で NUS の学生のときに、この寮の Hall Master でもある教授の研究室に所属していたことが縁で、現在寮の仕事をしている。

JCRC と SCRC は新学期が始まる前に、一緒にチームビルディングの研修及びカウンセリングの講習を受けている。寮内で人間関係の問題が発生した場合は、まずは当該学生の仲の良い友人に声をかけるように促し、SCRC は友人を介して本人をサポートする方法をとっている。そのためにも、JCRC は寮内の人間関係にも目を配りながら、孤立する学生がいないように気を付けている。また朝・夕の食事は、全員で一緒に食事が望ましいとされているため、食事に現れない学生は何か問題を抱えている可能性があるというサインにもなる。

(2) 南洋理工大学 (Nanyang Technological University :NTU)

南洋理工大学は 1991 年に設置され、約 30,000 人が在籍している。学内には 16 の学部生用の学生寮があり、現在あと 2 寮を新規に建設している。学生寮の規模は国内最大で、学部生 20,000 人のうち、約 9,000 人分の部屋を確保している。2010 年第 1 回ユースオリンピックでは、大学が競技会場として使われた



Figure 3 南洋理工大学の学生寮の様子（左上より、外観、食堂、談話室）

ことから、学生寮は選手村としても使われた。本視察調査では、ハウジングオフィスの学生寮担当職員による案内のもと行われた。

1) 概要

南洋理工大学の学生寮は一つの寮につき 500 人又は 652 人の定員で、男女比は学年によって差はあるが全体ではほぼ同じである。シンガポール出身者と留学生の割合もほぼ同じである。寮費は一人部屋約 300SGD/月、二人部屋は約 200SGD/月で、寮によってバス・トイレ・エアコンといった設備に差があることから、寮費もそれに伴い増減する。寮で提供される食事は無いが、寮内にはキャンティーン（食堂）、また大学構内にもレストラン、売店がある。

2) 入寮手続きと入寮理由

入寮に関しては、大学の学生課で一括して行われる。ポイントシステムをとっており、在寮期間は 1 年間で、次年度に在寮できるかどうかはポイントが高い人から決まる。ポイントを増やす方法はいくつかある。まず、寮のアクティビティに参加する、寮内の委員会に所属する、留学生である、シンガポール出身でも大学から家が遠い、大学の部活に所属しているという場合は、ポイントが加算される。また二人部屋を希望する場合は、同部屋になる留学生とペアになり一緒に申込をすると、留学生支援をするという意味から優先される。ポイントは年度毎に計算され、ポイントの

繰り越しはできない。満室になった場合は、Waiting List に掲載され、空室ができたポイントが高い順に入寮が決まる。

入寮理由は、大学が中心地から 1 時間程離れていることもあり、通学時間のことを考えてという者が多い。また親からの独立、友人と一緒に暮らせるからという者もいる。一つのホールあたり、約 600 名の寮生のうち、3 分の 1 は寮内での積極的な活動を希望しており、3 分の 2 は大学への通学時間の短縮のため入寮しているという話である。

3) 寮内の交流と寮内組織

寮内の交流は、スポーツ（バスケットボール・バレーボール・スカッシュ・ラグビー・水泳・水球・陸上・テニス・サッカー等）が盛んな他に、ダーツや各種ボードゲームの同好会もあり、いずれも寮対抗で競い合っている。スポーツの同好会は一人につき一つまで登録が可能である。

また各寮では、新入生オリエンテーションキャンプ、「Dinner & Dance」（季節ごとのパーティー）、「Hall Production」（演劇大会）といった誰でも参加ができるイベントが多数企画されている。

寮生組織は JCRC が中心的な役割を担う。JCRC は各寮 20 名で構成され、1 年生から応募も可能であるが、そのようなケースは稀であるので、多くは 2 年生以上学生である。JCRC の役職は、President、Vice President、Business Manager、Financial



Figure 4 南洋理工大學 寮内の交流の様子(左より、Hall 12 の掲示板、Hall 13 の掲示板、寮内スポーツ大会の写真)

Controller, Secretary (Sports, Social, Welfare, Cultural 等)がある。寮の卒業生の組織はなく、JCRCは年度ごとに記録を取り、それを後任に引き継いでいくようになっている。

また5名の大学教員が寮のフェローを務めている。任期は3年で、フェロー手当がつき、家族も一緒に住めること、構内には幼稚園もあることなどから、希望者は多い。問題が発生した場合は、日中は各寮にある事務室に、夜間はフェローに相談するようになっている。

(3) 香港大学 (The University of Hong Kong : HKU)

香港大学は1911年に設置された、香港で最も歴史のある大学である。学生数は学部約12,000人、大学院約12,000人、合計24,000人で、学部生用には13寮6,500人分の部屋を確保している。13寮のうち、2寮が大学構内にあり、11寮はキャンパス周辺に立地している。

学生の出身地は、中国本土からが半分を占め、留学生はアメリカ、カナダ、イギリス、韓国、オーストラリアと他のアジアの国々からの者も多い。1学期には1500人の新入寮生、2学期には300-400人が短期留学で宿泊するため、寮生の入退寮は年間を通して流動的である。

本視察調査では、大学内の学生生活支援、キャリア支援の部署である、Centre of Development and Resources for Students (CEDERS)の学生寮担当者の案内のもと、構内に立地する「Simon K.Y. Lee Hall」を訪問した。

1) 概要

Simon K.Y. Lee Hallは1985年開寮し、学部生約300人が入居している。地上10階、地下3階、1-8階が住居部分、9階はランドリーとWarden(管理者)の住居、地下には寮内の活動で使用するスペースもある。各階に20部屋40人分の住居があり、階に



Figure5 : 香港大学 Simon K.Y. Lee Hall 外観及び寮内の様子(左より、外観、各階の談話室、寮行事のタペストリー、エレベーター内の寮生活動の広告、寮生のメールボックス)

に参加するのに対して、シンガポール・香港では寮のスポーツチームや寮でのイベントに参加することで、学生同士の交流が生まれている。

寮内の交流が活発になる仕掛けとして、大学側も寮の活動に積極的な学生かどうかを判断し、入寮者を決めている。NUSのTemasek Hallは学生が入寮選考を行い、自分たちの寮の活動に合った寮生を入寮させている。NTUは大学の学生寮担当部署が、入寮・在寮の継続についてポイント制にして、その中に寮の活動に積極的かどうかということでポイントの加算がされている。またNUSの中には、大学の成績が一定基準から下がったら在寮ができないという場合もあり、寮ごとに独自の基準をもつ。SCCでは現在、寮の活動に積極的かどうかという基準では入寮を決めていない。事前に学生支援プログラムについてよく理解していることを望んではいないが、入寮前に実際に寮内での活動の様子を見る機会は、非常に少ない。入寮希望者への情報発信として、ウェブサイトの更新、オープンキャンパス等の行事での学生寮の紹介といった広報部門を強化することで、寮の理念を理解し入寮することが期待される。

SCCの特徴の一つは、「ルームシェア型」のハウス制をとっていることにある。NTUの学生寮担当者は、シンガポールではルームシェアのように少人数でキッチンやトイレを共有する場合、清潔な状態を保つのは難しいので、学生寮では難しいと話していた。今回の視察でも公共スペースの清掃は、専門のスタッフが行っていた。日本では学校教育の中で「掃除」の時間を設けていることが多く、公共スペースを掃除することに違和感がなく、学生寮においても当番制で掃除することに抵抗が少ない。実際に留学生との混住型の日本の学生寮では、留学生がキッチンやトイレの掃除を自分するという経験がなく、留学生に対して掃除をすることへの意識の変化を求めることがあるという。このことからハウス内の公共スペースの清掃を寮生が行うというのは、日本の学生寮の特徴の一つであると再認識することができる。

おわりに

シンガポール・香港・日本と学生寮の規模は異なるが、寮内の交流を活発にするしくみについては参考に

できる部分も多い。SCCは小規模であるからこそ全員にリーダーとなるチャンスがあり、一人一人が果たす役割は大きい。また海外への視察を通して、日本の学生寮もまた独自の発展をしてきたことがわかる。シンガポール・香港における学生寮の入寮の理由として、家族からの独立が挙げられており、住宅事情が似ている日本の大都市圏においてもこのような傾向がみられるようになるか、今後も注目していきたい。

また、今回視察を行った寮の中には、入寮時及び在寮を継続する際に、寮の行事に積極的に参加する意欲があるかどうか、積極的に参加したかどうかという基準を設けている寮もあった。大学に近いからという理由での住居としての寮ではなく、寮生同士の交流や共同生活からの学びを目的とする場合、寮の行事や寮の運営に関して理解のある者が集まることで、入寮してからのミスマッチをある程度防ぐことは可能であると考えられる。また寮生組織を運営していくためには、話合いや日々の当番など、個人の時間を寮のために使うことが求められ、時にそれらに時間を割くことは不公平感となって現れることがある。寮行事への積極性、寮運営への貢献度が評価されることは、このような不公平感を是正する方策でもありと考えられる。

SCCは開寮3年目であるため、現在はまだ寮の礎を築いている途中でもある。寮の将来に向けて、寮生組織や寮内の行事がよりよく発展するよう意見を出し合うことは、この時期だからこそできる経験であるということ、寮生ともに共有していきたいと考えている。

参考文献

- 赤坂瑠以(2010)「アメリカの学生寮視察調査—本学学生寮への提案—」『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学教育機構紀要—』1 pp.49-55.
- 池田充裕(2012)「第4章 シンガポール—世界の頂点を目指す自治大学化と米中を結ぶ新大学の誕生—」pp.65-81. 北村友人・杉村美紀共著(2012)『激動するアジア大学改革—グローバル人材を育成するために—』上智大学出版に所収,
- 桂瑠以(2013)「学生寮調査報告—学生寮の生活環境及び人間関係に着目して—」『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学教育機構紀要—』3 pp.30-42.

2014年2月27日 受稿